

# IMF サーベイ

年次審査

## IMF、2012年の中国の成長率を約8%と予測

IMF サーベイ・オンライン  
2012年6月8日



中国・北京の買い物客。IMFは、中期政策として、経済をより消費主導の成長モデルに近づけることを求めている  
(写真：Michael Reynolds/EPA)

- 世界需要が低迷する中、2012年の中国経済の成長率は8%と予想
- 下方リスクが生じて、中国には強力な財政刺激策を取れる余地がある
- 現状では、中国通貨は「いくぶん過小評価」になっている

しかし、デビッド・リプトン IMF 筆頭副専務理事によれば、インフレは抑制されており、北京政府は一段と深刻な世界景気の下降があっても、経済を下支えする余力を持っている。2010年の中国の経済成長率は10%強だった。

同氏は、中国人民銀行による0.25%の利下げ決定を歓迎した。それは、「成長が鈍化し、特に欧州からの下方リスクが増している中、中国当局のマクロ経済目標達成へのコミットメントを示している」のである。

### 消費主導への転換

中期的課題としては、中国経済を一段と消費主導成長モデルに近づけ、同時により包摂的な成長を促し、拡大しつつある不平等に対処することが肝要である。IMFのチームは、マーカス・ロドウェルが率いていた。リプトン氏は、北京における政策に関する最終協議に出席した後に、この[見解](#)を表明した。同氏は、中国の王岐山副首相と会見し、中国人民銀行の周小川総裁、財務相の謝旭人氏ならびに他の中国高官と立ち入った協議をした。

「このような転換によって、中国の生活水準が大きく上昇し、それが力強く均衡のとれた世界経済成長に着実につながるだろう」とリプトン氏は北京において報道関係者に語った。

中国は現在、成長の質を高めると同時に、成長率が過度に低下しないようにマクロ経済政策を微調整しているが、IMFはこれを支持している。同氏によれば、2009-10年における中国の時機を得た大規模な経済刺激策によって、国内経済の成長を支え、

危機の悪影響から中国国民を守り、世界需要を高めて世界経済の回復を助けたのである。

リプトン氏は、さらに加えて「中国は、強力な対応が必要となれば、それを再度発動する余力をもっている」と述べた。しかし、どのような刺激策も財政手段を通じ、かつ中期におけるリバランスに資するように行われなければならない。

### 更なる改革が必要

これに関連してリプトン氏は、「投資により少なく消費により多くを頼り、環境負荷が少なく質の高い成長を達成するための」一連の改革が必要であると主張した。

その改革には次のようなものが含まれる：家計所得を高め、金融システムを自由化し、社会保障を強化すると同時にそのための負担を下げ、為替レートをさらに元高にして、生産諸要素のコストを高める。これらの方策は中国の第12次5カ年計画において重点策とされているが、「適切なタイミングで実施されることが重要である」と同氏は指摘している。

リスクがさらに積み上がる前に、そして、消費主導の成長にスムーズに移行できるよう、これらの改革はより速やかに実施されなければならない。「そうでなければ、国内での不均衡をめぐる問題は抑制が難しくなり、投資の急減を招くかもしれない」

### 波及効果分析

リプトン氏は、中国における投資の急激な縮小から生じるより広範な波及効果についてのIMF専門たちの分析結果に言及した。

「波及効果報告書に記載されている我々の分析によれば、この投資縮小は、中国経済、一次産品価格、そして世界経済に重大な影響を及ぼす」

また、波及効果報告書は、世界がいかに緊密に結びついているか、そして世界のシステム上重要な五つの国や地域—中国、ユーロ圏、日本、イギリス、アメリカ—のそれぞれのリスクと緊張を明確にし、これらの問題を解決するための共同作業の必要性を強調している。

### 人民元は大幅ではないが過小評価

リプトン氏によれば、過去数年において、中国は世界の他の地域との対外不均衡を大きく削減した。

経常収支黒字の対 GDP 比は、2007 年の 10%から昨年の 3%弱にまで大幅に下がった。「これは、通貨の過小評価が緩和されたことを示している」とリプトン氏は述べている。

IMF エコノミストによる暫定的分析結果によれば、中国人民元は、現在「大幅な過小評価」ではなく、「いくぶんの過小評価」になっている。

### アジアは堅調

世界経済全体は低迷しているにもかかわらず、アジアには根強い内需があり、それを反映して失業が少なく、与信が伸び続けている。

IMF 予測によると、今年のアジア地域の成長は 2011 年とほぼ同じ 6%、そして 2013 年には約 6.5%になる。しかし、地域の内部ではかなりのバラつきがある。アジア新興国は、中国とインドに牽引されて世界で最も高い成長を続ける見込みだが、アジアの工業化地域全体での成長は 2.2%に過ぎないと予想されている。